

保育学生による地域子育て支援の取り組み －2017年度活動報告－

**A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare Practical
Training School: A Report of the Activity 2017**

ズビャーギナ山田章子 ・ 笹 倉 千佳弘
荊 木 まき子 ・ 松 本 希
柴 川 敏 之 ・ 伊 藤 優
秋 山 真理子 ・ 鎌 田 雅 史
田 中 誠 ・ 澤 津 まり子

保育学生による地域子育て支援の取り組み

－2017年度活動報告－

A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare

Practical Training School: A Report of the Activity 2017

ズビャーギナ山田章子 (幼児教育学科)・笹倉千佳弘 (幼児教育学科)

ZVYAGINAYAMADA Akiko

SASAKURA Chikahiro

荊木まき子 (幼児教育学科)・松本 希 (幼児教育学科)

IBARAKI Makiko

MATSUMOTO Nozomi

柴川敏之 (幼児教育学科)・伊藤 優 (幼児教育学科)

SHIBAKAWA Toshiyuki

ITO Yu

秋山真理子 (幼児教育学科)・鎌田雅史 (幼児教育学科)

AKIYAMA Mariko

KAMADA Masafumi

田中 誠 (幼児教育学科)・澤津まり子 (幼児教育学科)

TANAKA Makoto

SAWAZU Mariko

本学幼児教育学科では、子育て支援を目的とした学生ボランティアグループG B A (Girls and Boys Be Ambitious の略、以降G B Aと記す)を結成し、2016年度で11年目を迎えた。G B Aの主な活動は、「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」(以降「就実やんちゃキッズ」と記す)の開催であり、過去11年間の取り組みについては既に報告済みである^{1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11)}。

昨年度の報告では、今後の課題として、「学科の教育カリキュラムとの連動」、「新体制での安定化」、「全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり」の3点を挙げた。それぞれの課題について、もう少し詳しい説明を加えておく。

「学科の教育カリキュラムとの連動」については、発足当初から就実やんちゃキッズは、地域貢献の場であると同時に学生にとって実践的な学びの場であり、初年次教育や各授業の発展的な演習の場として活用されてきた。さらに2016年度より、就実やんちゃキッズは学科の公式的な教育活動の場でもあると正式に位置づけられ、学生の主体のボランティア活動という側面を尊重しながらも、全ての学生にとって有益な活動となるようにという活動の方向性が設定された。学科のカリキュラムとの連携を密にし、これまで以上に実りある活動に進化させていくことを目指し、学科のFD活動の議題として本年度も引き続き継続審議している。

「新体制での安定化」について、就実やんちゃキッズは2016年度より年間の開催日数を4回に定め新体制でスタートをきった。これは、以前の過密なスケジュールにおける特定の教

員や学生への過剰負担の問題や、準備・振り返りを十分に行うことが難しかったことの反省から話し合いを重ね、学科の特色あるイベントとして発展的に継続していくことを目的とし変更に至った。就実やんちゃキッズの規模は年々拡大傾向にあり、毎回のイベントには、400名近い参加者が来場し、所属する学生数も急増している。規模が大きくなるにしたがって、駐車場の確保や連絡調整の難しさなどの課題も出てきている。学生、教員双方で継続的に話し合いの場をもち、すべての参加者にとって安全で有益な場となるように、毎回のリハーサルやイベント修了後の振り返り会の在り方を見直すとともに、情報交換を密にして改善に努めている。

「全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり」については、就実やんちゃキッズは『地域の子育て支援』という原点に立ち、継続してすべての引率者が子どもと一緒に安心して参加しやすい環境づくりに力を入れている。来場者に対して、目配り心配りをして寄り添う態度を身に着けることは、学生にとっても大切なことである。また、2017年度より、誰もが安心して参加しやすい活動となるように、岡山県、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会の3機関から後援を得た。

本報告は、上記のような課題解決を念頭においてすすめた、2017年度の地域子育て支援の取り組みについて、経過及び結果をまとめたものである。

1 「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」

1) 活動内容

地域貢献および教育活動の一環として実施してきた就実やんちゃキッズとは、幼児教育学科の学生が結成した「子育て支援ボランティア学生グループGBA」と「中四国保育学生研究大会」のメンバー（以降「中四」と記す）を中心にしておこなう子育て支援イベントのことである。就学前の子どもとその保護者を対象に、本学の体育館アリーナで年間4回、すべて土曜日の午前に開催した。なお今年度でGBAは結成11年目、就実やんちゃキッズは10年目を迎える。

就実やんちゃキッズのプログラムは前半と後半に分かれており、プログラム前半は、パネルシアター・リズム体操・オペレッタ・手遊び、プログラム後半は様々な遊びをおこなうことのできる「交流広場」である。具体的な活動の様子については写真1～6を、具体的な公演演目や参加人数については表1を参照されたい。



写真1 パネルシアター



写真2 リズム体操



写真3 オペレッタ



写真4 手遊び（幕間）



写真5 交流広場
（手作りおもちゃ）



写真6 交流広場
（赤ちゃんコーナー）

表1 就実やんちゃキッズ活動内容

日 時	公 演 演 目	参加人数	学生数
第1回 5月27日	パネルシアター 「ドレミファ音符を探せ」 リズム体操 「ぼよん行進曲」 オペレッタ 「3びきの子豚」 ＊ 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 177 人 子ども 207 人	152 人
第2回 7月1日	パネルシアター 「動物園へ行こう」 リズム体操 「エビカニクス」 オペレッタ 「シャカシャカシャカシャカ はをみがこう」 ＊ 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 168 人 子ども 216 人	129人
第3回 11月25日	パネルシアター 「あわてんぼうのサンタクロース」 リズム体操 「サンサンたいそう」 オペレッタ 「もったいない～神様からのメッセージ～」 ＊ 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 170 人 子ども 207 人	139人
第4回 1月20日	パネルシアター 「とりかえっこ」 リズム体操 「ナミナミナ」 オペレッタ 「桃太郎」 ＊ 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 141 人 子ども 180 人	148 人

＊第3回就実やんちゃキッズ以降は、1年生が中心となって開催する。

第1回公演（2017年5月27日実施。参加者：大人177人、子ども207人、総数384人）の活動内容は次のようなものであった。今年度、新しいメンバー79名がGBAに加わり学生数は152名、来場者は384名（大人177名、子ども207名）となった。手遊び隊のオープニングに始まり、パネルシアター「ドレミファ音符を探せ」では、子どもたちも一緒になって音符を探し、リズム体操「ぼよん行進曲」では、今年度のテーマである「からだをうごかそう 1・2・3！」の通り、力いっぱい身体を動かすことができた。続くオペレッタ「3びきの子豚」では、オオカミ役の迫真の演技に引き込まれる子どもの様子が見られた。交流広場では、学生と子どもたちの溢れんばかりの笑顔が初夏の陽気に輝き、幸先の良いスタートを切ることができた。

第2回公演（2017年7月1日実施。参加者：大人168人、子ども216人、総数384人）の活動内容は次のようなものであった。手遊び隊は、「はじまるよ」、「いわしのひらき」、「だんごむし」の3曲で演目をつなぎ、子どもたちを惹きつけていた。パネルシアター「動物園へ行こう」では、それぞれの動物をどのように効果的に見せるかを研究して臨んだ。リズム体操では、子どもに人気のある「エビカニクス」を踊り、オペレッタ「シャカシャカシャカシャカ はをみがこう！」では、躍動感あふれる演技ができた。交流広場では、折り紙コーナー

を充実させ、学生にとっては授業での実践の場となった。また今回、水分補給の呼びかけや、迷子・落とし物の案内、体育館前の横断歩道での交通安全対策など、参加者が安全に楽しめるように工夫した。

第3回公演（2017年11月25日実施。参加者：大人170人、子ども207人、総数377人）の活動内容は次のようなものであった。オープニングは手遊び隊の「はじまるよ」、続いてパネルシアター「あわてんぼうのサンタクロース」、リズム体操「サンサンたいそう」と演目が進められた。オペレッタ「もったいない ～神様からのメッセージ～」は、中四国保育学生研究大会での発表演目でもあった。この回より1年生が中心となって運営し、2年生は引き継ぎの役割を行った。

第4回公演（2018年1月20日実施。参加者：大人141人、子ども180人、総数321人）の活動内容は次のようなものであった。卒業を間近に控えた2年生が見守るなか1年生が中心となって、手遊び隊、パネルシアター「とりかえっこ」、リズム体操「ナミナミナ」と進行され、オペレッタでは「桃太郎」が上演された。後半の交流広場では、2年生が「図画工作Ⅱ」の授業で卒業制作として作ったダンボールハウス18棟が展示された。また、1年生が「乳児保育Ⅱ」で作成した手作りおもちゃも設置された。今年度最後の就実やんちゃキッズにふさわしい充実した活動であった。

2) 課題の達成状況

i) 学科の教育カリキュラムとの連動

昨年度、就実やんちゃキッズが学生主体の活動であると同時に、幼児教育学科の公式的な教育活動の場でもあることが学科会議で確認された。これにより、G B Aのメンバーとして自主的に参加している学生だけでなく、それ以外の学生も含めた学生全体にとっても、意義のある活動を展開していくことが期待されることになった。

そこで幼児教育学科専任教員は、各自の担当科目において、就実やんちゃキッズとの関連を自覚した授業内容になるよう努めた。具体的には、①担当する授業の中で、就実やんちゃキッズに役立つと思われる内容で、学生に身につけさせたいと思う知識・考え方・技術は何か、②それが就実やんちゃキッズのどの場面で役に立つのか、③授業で伝えたい具体的な内容と重点目標、という3つの観点から、担当科目の授業内容をとらえなおした。その一例として、折り紙コーナーを充実させて、授業（表現Ⅲや図画工作Ⅰ）で行った折り紙を実践したことが挙げられる。(写真7) さらに自らの実践をまとめ、「FD 報告書」（就実短期大学幼児教育学科）に記録として残すことにした。



写真7
授業との関連を自覚した実践
(折り紙コーナー)

ii) 新体制での安定化

昨年度から就実やんちゃキッズの年間実施回数が少なくなったため、活動の質を安定させ学生のモチベーションを維持すること、就実やんちゃキッズの開催間隔が長くなることから求められる広報上の工夫という2つの課題が指摘された。

前者について2点、述べておく。1点、今年度の1年生107人中95人(88%)がG B Aまたは中四のメンバーとなり、その後、抜ける学生がいなかったことから、学生のモチベーションは維持されたと考える。ただし、人数が大幅に増えたため、これまで以上に、就実やんちゃキッズへのかかわりに学生間で濃淡が見られるようになり、活動の質が安定されているとは言い難い。この点については今年度の課題として後述する。2点、今年度からG B A室内にアンケート用紙保管用ロッカーを設置し、就実やんちゃキッズに参加した保護者や学生によるアンケートを学生が読めるようにした(原則としてG B A室からの出しは禁止)。これは学生からの要望に応えたもので、当日の振り返りだけでは満足せず、就実やんちゃキッズへの自らのかかわりをより良いものにしていこうという意欲の表れであろう。後者の広報上の工夫については、山陽新聞都市県版の「まちなびコーナー」(毎週火曜日発行、子育て・イベントに関する情報掲載欄)に、就実やんちゃキッズの告知を行った(「第1回就実やんちゃキッズ」2017年5月16日発行分、「第2回就実やんちゃキッズ」6月27日発行分に掲載)。

その他、音響機器の紛失を防ぐためにG B A室に鍵付きロッカーを設置し保管するようになったことや、G B Aの印鑑を作成しG B A名義の通帳を作成したことも、間接的にはあるが新体制の安定化に寄与したと考える。

iii) 全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり

就実やんちゃキッズの活動目的は、「地域の子育て支援」である。全ての参加者がより安心して快適に楽しむことのできる活動が目指されており、これまでから継続されてきた課題であると言える。このような課題に対する今年度の取り組みを、講演開始前と公演中に分けて4点、記しておく。講演開始前の取り組みは、駐車場スペースの確保とアリーナ前の横断歩道の安全確保である。また、公演中の取り組みは、夏場の水分補給と貴重品の徹底管理である。順にみていこう。

まずは公演開始前、体育館アリーナに入場する際の取り組みについて説明する。既述のように就実やんちゃキッズは今年度で10年目を迎える。地域での知名度も高まりリピーターも多い。それに伴って自家用車での来場者が増えており、駐車できる余裕がなくなってきた。特に、他の学部や学科による行事等が就実やんちゃキッズの実施日と重なると、駐車するスペースが極端に少なくなる。そこで今年度は、総務課に事前に申し入れをして、必ず、一定の駐車場スペースを確保するようにした。また、来場者の多くは開始時間の10時前後に集中するため、アリーナ前の横断歩道が人であふれ、安全確保の点で問題が生じている。警備員1名を配置しているが、それでは十分とは言えないため、就実やんちゃキッズ開始前後に5

名の学生をアリーナ入り口に配置することにした。(写真8)

次に公演中の取り組みについて説明する。来場者が多いだけでなく新入生のGBA参加者が増えたことにより、就実やんちゃキッズ当日の体育館アリーナは人であふれかえっている状況になる。そこで健康管理を目的とした水分補給対策として、蓋つきの飲み物であればアリーナ内でも飲んでよいというルールを作り、地域の参加者だけでなく学生や教員にも周知徹底するようにした。

また、参加者の増加によって盗難等が生じないように、これまでと同様、貴重管理を徹底し、学生による来場者への積極的な声かけに努めた。



写真8 交通安全対策
(アリーナ入り口)

2 アンケートの方法及び結果

就実やんちゃキッズでは、保護者と学生に対しアンケート調査を行っている。

1) 参加者保護者へのアンケートの方法

受付でアンケート用紙を配布し、就実やんちゃキッズ終了時に回収した。アンケートでは、保護者に対し、①就実やんちゃキッズの参加回数、②子どもの年齢、③子どもとの続柄、④就実やんちゃキッズのプログラムの内容に関する意見、⑤今後の参加意思、⑥就実やんちゃキッズをどのように知ったかについて尋ねた。

2) 保護者へのアンケート結果

以下の結果は、就実やんちゃキッズ (5/27, 7/1) で得られたデータに基づくものである。協力してくださった保護者の数は、313名であり、例えば夫婦で回答している場合など、複数の回答者によって答えられたアンケートも含まれ、回収されたアンケートの総数は273件であった。

i. 就実やんちゃキッズの参加回数

就実やんちゃキッズに参加した世帯ごとに、今回の参加が何度目か尋ねた結果を図1に示す。

χ^2 検定の結果、参加回数に偏りはなかった。過去の報告と同様に約半数が2回以上参加をしている。

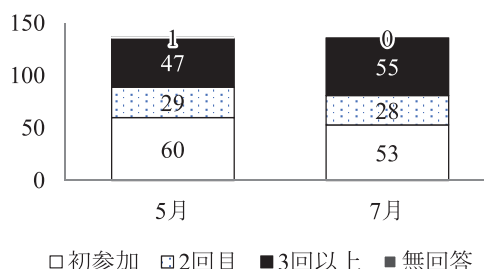


図1 就実やんちゃキッズ参加世帯の参加回数

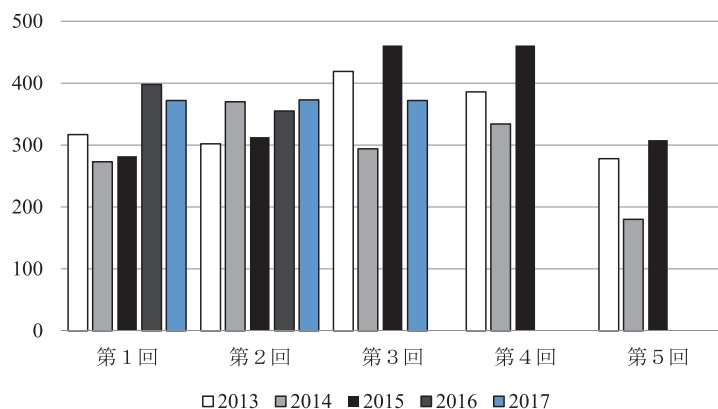


図2 就実やんちゃキッズの参加者の年次推移

表2 就実やんちゃキッズをどのように知ったかについて

	ホームページ	ポスター	チラシ	新聞	知人	就実の関係者	その他
人数（人）	70	40	32	3	62	28	14
割合（％）	25.64	14.65	11.72	1.10	22.71	10.26	5.13

ii. 参加人数の推移

過去5年間における月ごとの参加者の推移を図2¹⁾に示す。昨年度から第1回目が5月開催となったこともあり、第1回目の来場者は過去3年間と比較しても多かった。しかし、1年生も2年生の様子を参観する中で、状況に応じて来場した子どもたちに声をかけていたので、大きな混乱は起こらなかった。就実やんちゃキッズをどのように知ったか尋ねた結果を集計したところ、情報源として最も多かったのはホームページ（25.64％）であった（表2）。昨年度の結果¹¹⁾と同様であった。ホームページを定期的に更新し、常に新しい情報を提供できるように務めていることもホームページが情報源として活用されている要因の一つと考えられる。

iii. アンケートの記入者と子どもの関係

アンケート記入者と子どもの関係について、表3に示す。引率者の多くは母親であり（76.68％）、次いで父親（18.85％）、その他（1.92％）の参加が多かった。アンケート記入者のうち、夫婦で一緒に回答しているケースが27件（アンケート273件のうち9.89％）あり、父もしくは母と一緒に祖父母が回答しているケースは、7件（アンケート273件のうち2.56％）であった。

表3 引率者の割合

	人数（人）	割合（％）
母	240	76.68
父	59	18.85
祖母	4	1.28
祖父	4	1.28
その他	6	1.92
保護者合計	313	100.00

iv. 子どもの年齢について

1世帯辺りの子どもの参加人数は、全世帯273件のうち、44.32%（121件）が1人、52.85%（130件）が2人、6.91%（17件）が3人以上であった。子どもの総数は432人となっており、年齢の分布は表4の通りである。全体的に、3歳未満の子どもが54.86%と半数を超えており、多い傾向がみられた。

表4 参加した子どもの年齢

	人数 (人)	割合 (%)
1歳未満	57	13.19
1歳以上 2歳未満	70	16.20
2歳以上 3歳未満	110	25.46
3歳以上 4歳未満	68	15.74
4歳以上 5歳未満	60	13.89
5歳以上 6歳未満	41	9.49
6歳以上	26	6.02
合計	432	100.00

v. プログラムについて

①全体の時間

就実やんちゃキッズは、90分間のプログラムで開催している。プログラムの長さについて、参加者の印象を図3に示す。参加者の86.08%がちょうど良いと答えており、プログラムの長さは適切であることが示された。

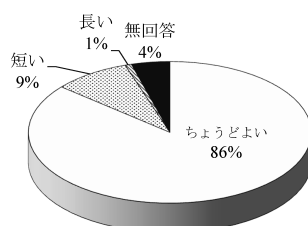


図3 プログラムの長さ

②特に良かったと思うプログラム

アンケートでは、良かったと思うプログラムについて、保護者と子どもに回答を求めた（複数回答可）。保護者と子どもが選んだプログラムを表5に示す。昨年に引き続き、保護者も子どもも、交流広場を良かったとする割合が最も多かった。また、2番目に多かったのが今年度は保護者がオペレッタ、子どもがリズム体操とわずかであるが意見が分かれた。これらの結果から、保護者はオペレッタ等のストーリーのある演目、子どもは一緒になって体を動かす遊びに対する満足度が高いことが示された。

表5 特に良かったと思うプログラム

	手遊び	パネルシアター	リズム	オペレッタ	身体測定	交流広場	その他
保護者による 選択数	72	70	122	124	38	155	3
選択数 (%)	26.37	25.64	44.69	45.42	13.92	56.78	1.10
子どもによる 選択数	34	35	73	70	5	147	3
選択数 (%)	12.45	12.82	26.74	25.64	1.83	53.85	1.10

vi. 今後の就実やんちゃキッズへの参加意思

図4に示す通り、保護者に対して「次回も参加したいと思いますか?」と尋ねた結果、「思う」と答えた参加者が80.95%であり、「思わない」と回答した参加者はいなかった。参加したいと答えた参加者は昨年度よりも増えていることから、地域の子育て支援の取り組みとして本活動は期待されていると言える。

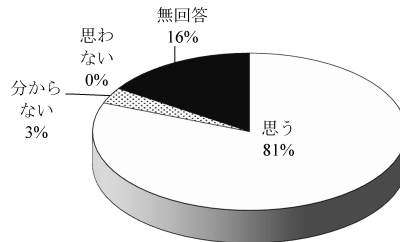


図4 今後の参加意思

3) 学生の振り返りのためのアンケートの方法

本アンケート調査は、学生自身が活動を振り返り、さらに問題点を抽出し、次回以降の就実やんちゃキッズに活かすきっかけとすることを目的にしている。就実やんちゃキッズ終了後の反省会の時間に、学生にアンケート用紙を配布し回収した。質問紙は、①公演について振り返り（11項目）、②交流広場（子どもとのふれあい）に関する振り返り（10項目）、③全体に関する満足度の振り返り（2項目）の23の振り返り項目から構成されている。各項目について「あてはまる（5点）」「少しあてはまる（4点）」「どちらでもない（3点）」「ややあてはまらない（2点）」「あてはまらない（1点）」の5件法にて回答を求めている。加えて、公演と交流広場での活動それぞれに関し、学生がどのような課題を意識するようになったかについて自由記述による回答を求めた。各回でアンケートに回答した学生数は、5月（140名）、7月（124名）であった。

4) 学生へのアンケートの結果について

i. 調査項目の記述統計量

質問項目の集約と今後の改善を目的に、アンケートの各項目に関する、平均値、標準偏差、1変量の t 検定における95%信頼区間について表6に示す。学生が楽しみながら、積極的に子育て支援ボランティアの活動を行っていることが伺えた。

また、全体平均の95%信頼区間の推定値が「4：少し当てはまる」に満たない項目については、今年度の学生の課題として捉えることができる。今年度の学生スタッフは、公演に関しては、「人前で演技することが上手になった」「自分自身で創意工夫した」「事前準備・練習がよくできた」といった項目において特に課題を感じていた。2年生にとっては実習前で練習時間や準備が十分とれなかった中での実施となり、今後は限られた時間をどのように有

効に使うか検討していく必要があるだろう。また、交流広場については、「保護者・高齢者と積極的に交流できない」「遊びのレパトリーが増えた」、「自分に自信がもてるようになった」、「他人の立場や気持ちを読み取れるようになった」などに課題を感じていた。子どもはもちろん、保護者や地域の方とも積極的にコミュニケーションを取っていくことも今後の課題といえるだろう。

表6 調査項目の記述統計および一変量のt検定における94%信頼区間の推定

サンプルサイズ N=264						
	有効 N	平均値	中央値	標準偏差	標準誤差	信頼区間 95%下限 95%上限
公演について						
事前準備・練習がよくできた。	248	3.75	4.00	1.18	0.08	3.60 3.89
保育に関する技術が身についた。	252	4.02	4.00	0.86	0.05	3.91 4.13
人前で演技することが上手になった。	249	3.33	3.00	1.23	0.08	3.18 3.48
意識して笑顔ができた。	253	4.45	5.00	0.84	0.05	4.35 4.56
積極的に活動できた。	253	4.19	4.00	0.88	0.06	4.08 4.30
みんなと協力することができた。	252	4.35	5.00	0.81	0.05	4.25 4.45
臨機応変に行動することができた。	253	4.00	4.00	0.91	0.06	3.89 4.12
自分自身で創意工夫した。	250	3.64	4.00	0.93	0.06	3.52 3.76
自分の役割がきちんと果たせた。	252	4.08	4.00	0.95	0.06	3.97 4.20
新たな課題が見つかった。	246	3.79	4.00	1.08	0.07	3.65 3.92
交流広場について						
子どもと積極的に交流できた。	260	4.45	5.00	0.77	0.05	4.36 4.54
保護者・高齢者と積極的に交流できた。	260	3.62	4.00	1.05	0.07	3.49 3.74
遊びのレパートリーが増えた。	259	3.65	3.00	0.90	0.06	3.54 3.76
自分も楽しく参加できた。	261	4.56	5.00	0.73	0.05	4.47 4.64
自分に自信がもてるようになった。	261	3.66	4.00	0.88	0.06	3.55 3.77
他人の立場や気持ちを読み取れるようになった。	261	3.8	3.50	0.82	0.05	3.7 3.9
子どもについての理解が深まった。	260	4.07	4.00	0.78	0.05	3.97 4.16
子育て支援への理解が深まった。	261	4.01	4.00	0.85	0.05	3.9 4.11
新たな課題が見つかった。	254	3.91	4.00	1.00	0.06	3.78 4.03
全体的な満足度						
全体的に今日の活動に満足できた。	251	4.30	4.00	0.82	0.05	4.20 4.40

3 おわりに

本年度をもってG B Aの活動は12年目、就実やんちゃキッズの活動は10年目を迎えた。本年度の活動は、昨年度の就実やんちゃキッズの抜本的な見直しを引き継ぐ形で取り組んだ。より地域に貢献し、学生にとっても意義ある活動となるように、次年度以降の課題をと提示する。

今年度の特徴の一つとして、1年生のG B Aへの参加が大幅に増えたことが挙げられる。G B A全体として、参加者の増加は好ましいことであるが、そのことによって、G B Aのメンバーであるという自覚や就実やんちゃキッズへのかかわりの程度において、学生間にばらつきが見られるようになった。言い換えれば、すべてのG B Aメンバーが同じような「主体性」をもって参加しているとは言えないということである。就実やんちゃキッズの活動の質を安定させるという意味からも、見過ごすことはできないと思われる。そもそもG B Aは、

それに参加しても単位につながるわけではなく、あくまでもボランティアな活動である。人数の増加によって原点が見失われないようにしたい。加えて、GBAメンバーの増加は、就実やんちゃキッズ実施日だけでなく日々の活動も含めて、活動全体をどのようにコーディネートしていくのかという問題を生じさせた。グループの再編や連絡の仕方の工夫など、今後、取り組むべき課題は多岐にわたるであろう。(写真9)



写真9 今年度のGBAメンバー
(リハーサル後のミーティング)

以上から、GBAメンバー増加に起因する課題として、①学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化、②GBAという組織の見直しとそれに伴う活動の合理化、という2点を挙げておきたい。また、従来から指摘されてきた③全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり、を加えておきたい。

謝辞

2017年度の子育てボランティアグループGBA及び「就実やんちゃキッズ」の活動は、平成29年度就実大学・就実短期大学学術・文化・スポーツ奨励金を受け実施した。記して深謝致す次第である。

¹ 2012年～2015年は、第1回目4月、第2回目5月、第3回目6月、第4回目9月、第5回目10月開催であった。2016年から第1回目4月、第2回目6月（2017年は7月）開催となった。

引用文献

- 1) 村田恵子、澤津まり子、立石あつ子（2006）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－備前地域子育てキャラバン事業報告－、就実論叢、36（社会篇）、pp.135-152.
- 2) 澤津まり子、永田彰子、田中誠、立石あつ子（2007）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2007年度活動報告－、就実論叢、37（社会篇）、pp.81-98.
- 3) 澤津まり子、堤幸一、立石あつ子、伊藤真、笹倉千佳弘、田中誠、永田彰子、山根薫子、Z. 山田章子（2008）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2008年度活動報告－、就実論叢、38（社会篇）、pp.285-298.
- 4) 澤津まり子、伊藤真、堤幸一、立石あつ子、笹倉千佳弘、Z. 山田章子、田中誠、山根薫子（2009）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2009年度活動報告－、就実論叢、39、pp.233-247.
- 5) 澤津まり子、立石あつ子、柴川敏之、秋山真理子、堤幸一、笹倉千佳弘、田中誠、山根薫子（2011）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2010年度活動報告－、就実

論叢、40、pp.163-172.

- 6) 澤津まり子、柴川敏之、松本希、鎌田雅史、Z. 山田章子、秋山真理子、笹倉千佳弘、田中誠、山根薫子 (2012). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2011年度活動報告一、就実論叢、41、pp.175-186.
- 7) 松本希、柴川敏之、澤津まり子、鎌田雅史、田中誠、秋山真理子、Z. 山田章子、笹倉千佳弘、山根薫子 (2013). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2012年度活動報告一、就実論叢、42、pp.161-174.
- 8) 松本希、田中誠、澤津まり子、鎌田雅史、秋山真理子、笹倉千佳弘、柴川敏之、Z. 山田章子、山根薫子 (2014). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2013年度活動報告一、就実論叢、43、pp.325-336.
- 9) 田中 誠、秋山真理子、鎌田雅史、蔵永 瞳、澤津まり子、笹倉千佳弘、柴川敏之、Z. 山田章子、松本 希、山根薫子 (2015). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2014年度活動報告一、就実論叢、44、pp.291-301.
- 10) 秋山真理子、鎌田雅史、柴川敏之、蔵永 瞳、笹倉千佳弘、澤津まり子、Z. 山田章子、田中 誠、山根 薫子 (2016). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2015年度活動報告一、就実論叢、45、pp.209-223.
- 11) Z. 山田章子、鎌田雅史、松本希、伊藤優、荊木まき子、笹倉千佳弘、柴川敏之、秋山真理子、澤津まり子、田中誠 (2017). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2016年度活動報告一、就実論叢、46、pp.187-198.